

ごあいさつ

東京大学医学系研究科老年看護学／創傷看護学分野
関連学会協議委員会委員長 真田 弘美

本年度より関連学会協議委員会委員長を拝命いたしました東京大学医学系研究科老年看護学／創傷看護学分野の真田弘美と申します。

時は正に特定看護師（仮称）試行事業が開始され、長年臨床で経験を積んだ皮膚排泄ケア認定看護師たちが更なる専門教育を受け、新たなチャレンジに着手したところです。今や創傷ケアの現場に看護師の力は欠かせないものとなっています。そのような時代に看護師である私が本委員会の委員長に任命されたことを重く受け止め、尽力してまいりたいと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、ここでは、私が主宰する老年看護学／創傷看護の紹介をさせていただきます。本研究室のテーマは、高齢者に頻発する「寝る」「食べる」「排泄する」といった基本的日常生活に起因する創傷に対して、予防、診断、治療に必要な技術を開発することにあります。たとえば褥瘡、ストーマ、失禁、下肢潰瘍が該当します。

これまでの看護学の研究では疫学的手法や質的研究手法を用いた実態調査研究が主流でありました。この手法からは、臨床現場の問題が浮き彫りになり、姑息的ではありますが、従来の技術に何らかの工夫をすることができておりました。しかし、これでは抜本的な解決につながる新しい技術の開発は望めないと悩んでおりました。そこで、私たちが描いたモデルは、臨床現場からニーズを見出し、実験室にてシーズを顕在化し、新たな技術・製品を開発し、最後に臨床にてその評価を行うという、いわゆるトランスレーショナルリサーチ（TR）に取り組むことに他ならないという考えに至りました。そこで、看護学のみならず医学・分子生物学・薬学・工学の各分野からそれぞれを専門とする研究者を招集し、TRの円環を完結させ得る体制を研究室内に整えました。

このような取り組みは、既に医学の分野では広くなされております。しかし、疾病自体を研究対象とする医学研究とは立場を異にする看護学ならではの視点、つまり患者の命の質を高め「生きることを支える」為のTRを、私たちは“Bioengineering Nursing”と名付け、その実現に鋭意努力しております。



NEWS LETTER

日本創傷治癒学会

2011.6
No.63

●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学医学部外科学教室内

tel.03-3351-4774

fax.03-3355-4707

e-mail : info@jswh.com

URL : <http://www.jswh.com>

ます。その一例として、当教室における皮膚浸軟への取り組みをご紹介します。皮膚浸軟は褥瘡の重要なリスクファクターの一つですが、皮膚浸軟自体は病的状態とは認識されていないため、医学研究の中で研究対象とされることは極めて稀でした。私たちの臨床研究の中で皮膚形態の変化や皮膚障害との関連が明らかにされ、生物学的な解明の必要性を感じました。そこで、皮膚浸軟モデル動物を確立し解析したところ、皮膚浸軟は単なる角層の「ふやけ」ではなく、細胞レベル、遺伝子発現レベルでの変化であり、表面が乾けば問題がないと言う従来の認識を変え、その予防や治療に看護師が積極的に介入すべきであることが示唆されました。現在、皮膚浸軟に関連する尿や便の要因の解析、皮膚浸軟からの回復過程の解析等に取り組んでおり、今後は薬学や工学等の知識を総動員して、皮膚浸

軟の予防や回復促進の為に新たな看護技術を提案してまいりたいと考えています。これらの取り組みは未だ発展途上の状態ではありますが、その根底にある「多様な分野の統合によるブレークスルーの創出」という理念は、本学会の設立目的と共通するものであると言えます。

創傷管理学において、新たな集学的知見を生み出すために必要なことは学際的連携です。その中で創傷治癒学会のプレゼンスを高めるために、関連学会協議委員会では、まずは他学会への情報提供を優先して取り組んでいきたいと考えております。先生方にはご理解とご協力を賜り、また新たな交流のアイデアなどございましたら、是非ともご指導頂きますよう、お願い申し上げます。

WRRに会員の論文が掲載されました

会員の論文がWound Repair and RegenerationのVolume19.2に掲載されました。論文名、著者(筆頭執筆者または第2執筆者)は下記の通りです。

投稿規程に関しましてはジャーナルホームページ、<http://www.wiley.com/bw/journal.asp?ref=1067-1927&site=1>より入手してください。また各巻頭に掲載されておりますInformation for authorsをご参照下さい。なお、円滑な審査を行うために、2004年度よりオンライン投稿を推奨しております。

仲上 豪二郎 先生(東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 創傷看護学分野)
 須釜 淳子 先生(金沢大学大学院 医学系研究科保健学科)
 真田 弘美 先生(東京大学大学院医学系研究科 老年看護学／創傷看護学分野)
 「Contribution of quorum sensing to the virulence of *Pseudomonas aeruginosa* in pressure ulcer infection in rats」
 P.214～222